

第 70 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

富士見丘高等学校 2 年

平本 玲奈

課題①

本年は SDGs の中間年。あなたが、ユースリーダーとして SDGs 達成に向けた若者の取組を提案するとしたら、どのような提案をするか。

副題

小さな気付きから始めてみよう

みなさんは、ヘルプマークについてどれくらい知っていますか。ヘルプマークをつけている人がいつどんな助けを必要としているか考えたことはありますか。

義足や人工関節を使用している、内部障害や難病を患っている、あるいは妊娠の初期であるといったことは、一見したところでは他人にはわからないこともあります。ヘルプマークはそのような状況にある人が、周囲に配慮を必要としていることを知らせ、援助を得やすくなるように作成されたものです。

以前、私はこんな記事を見ました。数年前に国が指定する難病を患ったある女性は、ヘルプマークを付け、歩行には杖を使い、重い物をなるべく持たずに済ませながら、病気に細心の注意を払う生活をしていました。ある日、スーパーを訪れ、ヘルプマークを見せながら、商品の袋詰めをお願いすると「できません」と断られたそうです。私はこの記事を見て、とても驚きました。ヘルプマークがヘルプマークとして機能していないからです。

それ以来、私は外出するたびにヘルプマークを意識するようになり、いつしかあることに気が付きました。それは、ヘルプマークを付けている人が何を必要としているかわかりにくいということです。

ヘルプマークは、6 年前に案内用図記号に採用され、全国共通のマークとなりましたが、度々問題点として、認知度の低さが取りあげられてきました。2022 年に東京都が行ったアンケートでは、意味を含めて知っていたと答えた人は 6 割に過ぎません。これは「誰一人取り残さない」という SDGs のスローガンからかけ離れた現実であると言えます。

また、認知度だけでなく、機能性を高める必要があります。障害者の就労を支援する株式会社ゼネラルパートナーが 2021 年に事業の利用者を対象に行った「ヘルプマークの認知度・利用状況調査」では、ヘルプマークを利用していると答えた人は約 30%、役に立っている、どちらかというと役に立っていると答えた人はわずか 25%でした。この調査からは、ヘルプマーク十分に生かされていないことがわかります。

ヘルプマークの裏には自由記載欄があり、利用者は緊急連絡先や具体的な症状などを記入しています。しかし、表のマークだけを見ると、他人が汲むべき情報が伝わりません。そのため、ヘルプマ

ークの利用者の心情に配慮しつつ、表面にも簡単なイラストや記号を配置し、さらに QR コードを付けることで、必要な配慮や援助の内容を適切に理解できるようにすることも有効だと私は思います。中でも、QR コードによるデジタル化は言語の壁を乗り越え、世界中のどこでも、誰もが配慮や援助を求め、そしてまた、誰もがその助けの手を差し伸べることができる社会の実現に近づける一つの手段だと私は考えます。

しかし、私がヘルプマークの認知度や機能性の向上を訴えても、1 人の力で解決を図ることは困難です。そこでまず、ヘルプマークを日本中に、そして世界中に広めていくことに共感する若者の力の結集を目指します。今、こうして不自由なく過ごしている私たち若者もまた、いつヘルプマークに助けられる時が来るかわかりません。もちろん、ヘルプマークを必要としている人たちがより安心して快適に過ごせる社会を目指すことは大前提です。

今日、ヘルプマークについて知り、重要性を理解してくださった方は、ぜひ一緒に行動しませんか。SDGs の目標 3 が謳うように「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」ために、国連に声を届けましょう。同じく目標 3「すべての人に健康と福祉を」を実現し、それによってすべての人々にとって目標 11「住みやすいまちづくりを（住み続けられるまちづくりを?）」を叶えましょう。それは、目標 8「働きがいも経済成長も」の達成にもつながることで、私たち若者にとっても、持続可能で夢のある未来を作っていくことに他なりません。

もう一度、周りをよく見てみてください。一人一人の小さな気遣いが一人一人の安心につながります。目標 17 が示すように、一人一人のパートナーシップが不可欠なのです。

以上です。ありがとうございました。